令和４年度

(2022 年度)

事　業　報　告　書

（令和４年４月１日から令和５年３月３１日まで）

１．　学校法人の概要
２．　設置校の概要
３．　事業の概要
４．　財務の概要
５．　監事監査報告書

学校法人偕星学園

１．学校法人の概要

名称　　法人名　学校法人偕星学園　（旧　学校法人此花学院）
法人名変更　　平成 28 年 4 月 1 日　（寄附行為変更認可の日平成 27 年 11 月 25 日）
設置校　　大阪偕星学園高等学校（旧校名　此花学院高等学校）
校名変更　　平成 25 年 4 月 1 日　（名称変更届の日　平成 24 年 2 月 24 日）
所在地　　大阪市生野区勝山南 2 丁目 6 番 38 号　　電話　06-6716-0003

(1)　設置の目的

学校法人偕星学園は、教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に基づき、有為な人材を育成することを目的とする。

(2)　役員等

理事　７名　監事　２名　　（令和４年４月１日）

理事長	太田明弘	専務理事	太田尚樹	理事	梶本秀二	理事	村岡隆生
理事	永井博	理事	浅生千春				
監事	川内保幸	監事	早川徹				

評議員14名

学校三師（学校医・産業医、学校歯科医、学校薬剤師）３名

(3)　理事会の開催状況

理事会　定例会　１２回

令和４年４月から令和５年３月まで

役員賠償責任保険契約

私学法の改正に伴い、役員の損害賠償責任が明確となり、令和２年４月１日から会社役員賠償責任保険に加入している。

(4)　沿　革

昭和４年２月19日	甲種商業学校「此花商業学校」として東淀川区長柄中通３丁目に設立許可
昭和４年４月１日	第１本科(昼間部)および第２本科(夜間部)を設置
昭和20年４月１日	戦時措置により「此花工業学校」と改称
昭和20年９月１日	戦時転用のため、学校を西区元堀江国民学校(仮校舎)へ移転同時に此花商業学校の校名に復す。
昭和22年４月１日	学校改革により「此花中学校」併設
昭和24年３月22日	現所在地、大阪市生野区勝山南２丁目６番３８号に学校移転
昭和24年４月１日	「此花商業高等学校」となる
昭和24年５月１日	財団法人此花学院を設立、創立記念日を５月１日に定める
昭和25年９月１日	初代校長に平井孝道就任
昭和26年３月７日	私立学校法制定に基づき財団法人此花学院が「学校法人此花学院」に組織変更。設立代表者に平井孝道就任
昭和34年７月25日	４階建校舎を建設
昭和35年４月１日	普通科を設置
昭和36年４月１日	理事長に平井孝道就任
昭和39年５月25日	体育館(兼講堂)および室内プール竣工
昭和43年10月11日	第２運動場を設置
昭和47年11月25日	室内プールを改装し、武道室竣工
昭和48年４月１日	校名を「此花学院高等学校」と改称
昭和53年11月16日	創立５０周年記念式典並びに記念行事を挙行。新校歌制定
昭和57年４月１日	普通科に体育コース設置
昭和57年10月９日	富田林市喜志に校外野球グラウンド完成、竣工式挙行 : 野球グラウンド（16,987㎡）
昭和58年４月１日	普通科に英国社進学コース設置
昭和59年３月31日	第２運動場に新体育館竣工
昭和61年４月１日	第２代校長に平井博道就任
昭和63年10月25日	創立６０周年記念の集い挙行
平成元年５月２日	創立６０周年記念式典および祝賀会挙行
平成２年４月１日	ＩＦＣ進学コース設置
平成３年４月１日	商業科の募集停止 普通科に英数進学コース、総合ビジネスコース設置 コンピューター実習室新設
平成３年９月３日	理事長に平井博道氏就任
平成４年４月１日	コース名称　特進英国社コース、特進英数コース、特進IFCコース、文理コースに改称
平成５年４月１日	特進IFC コースをIFC（国際・留学）コースと名称改称。留学期間を１年とする
平成７年４月１日	IFC（国際・留学）コースに女子募集開始、共学化

平成９年４月１日	IFC（英語）コース設置（共学)。短期の海外研修ニーズにこたえる
平成９年５月１日	創立７０周年感謝の集いを挙行
平成11年４月１日	第３代校長に平井周就任
平成12年４月１日	IFC（英語）コースをIFW（国際教養）コース、体育コースをIFS（スポーツ）コースに改称 国際化推進に供する
平成14年４月１日	特進コースに女子募集開始、共学化の枠を広げる
平成16年４月１日	各コースの名称を特進コース、標準コース、長期留学コース、国際・福祉コース、スポーツコースと改称 全学男女共学化スタート
平成17年８月31日	校舎１号館、２号館耐震工事完了
平成18年８月31日	校舎３号館、４号館ならびに旧体育館耐震工事完了
平成18年10月28日	第４代校長に石岡信吾就任
平成19年３月31日	長期留学コースの募集を停止
平成20年４月１日	各コースの名称を特別進学コース、福祉進学コース、総合進学コース、スポーツ進学コースと改称
平成21年４月１日	第５代校長に中川英人就任
平成21年５月１日	創立８０周年を迎えた
平成22年４月１日	第６代校長に石岡信吾就任 福祉進学コース・総合進学コースを統合し、総合選択コースを新設 新制服採用
平成22年11月26日	理事長に太田明弘就任
平成23年１月11日	学校食堂を改修
平成23年２月19日	此花学院高等学校同窓会「このはな会」設立
平成23年４月１日	第７代校長に梶本秀二就任 特進選抜コース新設
平成24年８月24日	校庭に人工芝設置
平成24年８月	全館女子トイレ高機能化
平成24年10月	新体育館全面改修（非構造部材耐震化事業含む）
平成25年４月１日	校名を「大阪偕星学園高等学校」と改称 新校歌制定
平成25年８月１日	男子学生寮「星雲寮」竣工
平成27年８月	第９７回硬式野球部夏の甲子園大会出場
平成28年４月１日	学校法人名を「偕星学園」と改称
平成29年７月20日	新館「すばる館」竣工
平成30年８月31日	大阪北部地震による緊急対策　旧体育館裏門改修
平成30年度	第１体育館災害復旧工事 第２体育館災害復旧工事
平成31年４月１日	文理進学コース設置。総合コースを「進路探究コース」に改称
令和元年11月５日	創立９０周年記念事業挙行

（５）理事長　Ｍｅｓｓａｇｅ

本校が最も重視すべき教育

「心を鍛え、生きる力を養う」

輝かしい改革成果を生かして　本校はいっそうの発展と教育内容の充実を目指します。

１　教育施設の拡充と近代化

２　進学実績のさらなる向上

３　時代ニーズに沿った教育内容の整備

２．設置校の概要

（１）　名称　大阪偕星学園高等学校

（２）　在籍生徒数

令和４年５月１日現在　普通科　851名（募集定員計　1,020名）

（定員　1年　340名　2年　340名　3年　340名）

増員可能数60名を加え400名が設定枠

（３）校訓　誠実　努力　信念

（４）教育方針と理念

①文武両道の高校教育

進学教育とスポーツ教育の両面において、充実した学校教育を実践します。

②付加価値の高い学習指導

入学時点の学力に比べ、大きな学力向上を果たし、関関同立をはじめ、志望校に多数現役合格させます。

③面倒見のよい学校教育の実践

一人ひとりの生徒に対し、親身の指導、思いやりのある教育、個性を大切にする教育を行います。

（５）校名

大阪偕星学園とは、文字どおり、人は皆、かけがえのない星のような存在であることを校名に謳ったものです。

夜空にきらめく無数の星は、皆同じような輝きを放っていますが、どれ一つとして同一のものはありません。人間も同じように、不二の個性を持った存在であることをしっかり自覚して、本校に学び、それぞれの可能性を輝かせてほしいという願いを込めました。

（６）校章の由来

星を基調とした校章は、「生徒はすべて輝く星としての存在である」ことを象徴しています。また、星の中に星を重ねることで、男女共学であることを表現しています。校章の中心は紫陽花（あじさい）です、紫陽花の花言葉の一つは「ひたむきな愛情」であり、強靭さ・多様さ・協調を象徴します。生きる力を養う教育・個性を大切にする教育・共生教育。「大阪偕星学園高等学校」が目指す教育理念が、この校章に込められています。人（生徒）は皆、星であり、生徒ひとり一人の個性を大切にし、かけがえのない存在としてその可能性を伸ばし、鍛えていきたい。そんな願い・思いが込められています。

（７）夢を実現するための４つのコース

特進コース（国公立大学・難関私立大学合格を目指す）

偕に学ぶ喜びを大切にする

○ 偕星特進オリジナルの grow-up プランで「成長する喜び」を！

※grow-up プラン１年：仲間とコラボして「学ぶ喜び」を感じ、勉強したい自分になる。
２年：「どんどん行動できる自分」になって学力を一気にアップさせる。
３年：自分の目標とレベルに合った勉強で、志望大学を勝ち取る。

○ 質問×反復×自習で「学力アップの喜び」を！

○ 一人ひとりのニーズに合った指導方法

文理進学コース（私立大学文系学部への現役合格を目指す）

自ら考え・行動し、希望の進路実現を目指す

○ 目標に合わせた講習の実施

○ 一人ひとりに寄り添った指導

○ 自律性と自立性を重視

進路探究コース（大学・専門学校への進学や就職など幅広い進路選択が可能）

それぞれの個性を伸ばし「なりたい自分」を見つける４つのネクストステージ

○ 進　学　　きめ細やかな指導で実力を養成、大学受験に向けた講習等

○ 社会福祉　手話・点字楽しく学べる特性授業

○ 幼児保育　保育技術検定の合格を目指した対策

○ キャリア　充実したキャリア学習で採用試験に備える。自分に合った職業選択が可能。

スポーツコース

目標達成に向け全力でサポート

○ 勉強とスポーツを両立させ、文武両道を徹底

○ クラブ活動と授業が効果的に連動

○ 高校施設としてはトップクラスのトレーニングジム完備

（８）教職員数

職　　種	令和４年度 (R4.5.1)
専任（教諭）	３７
常　勤	２８
非 常 勤	１６
専任（事務職員）	１２
非常勤事務職員	３
非常勤技術職員	３
計	９９

（９）　在籍生徒

年月日	１年	２年	３年	合計
令和 4.5.1	236	293	322	851

３．　事業の概要

（１）　情報公開　　財務報告　資金収支決算書等について HP に情報公開

評価制度　　学校経営計画の取組内容及び自己評価等について HP に情報公開

（２）　主な広報媒体

学校案内・	令和４年８月上旬刊行	25,000 部
KIRARA（夏号）	令和４年７月下旬刊行	10,000 部
KIRARA（秋号）	令和４年９月下旬刊行	6,000 部
偕星通信 Vol.２０	令和４年４月上旬刊行	3,500 部
偕星通信 Vol.２１	令和４年７月中旬刊行	3,500 部

ホームページ・・・　令和 4 年 10 月下旬ホームページ（LP ページ）制作

（３）　主な施設改善の経緯

平成３０年度　　「すばる館」供用開始

猛暑対策　ミストシャワー（コンコース）

大阪北部地震による緊急対策　旧体育館裏門改修

喜志Ｇ　ＬＥＤ照明

第１体育館災害復旧工事

第２体育館災害復旧工事

第２体育館　ブロック塀工事

武道場LED化工事

令和元年度　　１・２号館教室美装工事
第２体育館横アスファルト舗装工事
令和２年度　　２・３号館教室美装工事
校内Wi-Fi網設置
３号館屋上漏水工事
第２体育館トレーニングルーム設置
星雲寮及び喜志グラウンド整備
令和３年度　　コロナウイルス対策に注力した施設等の整備
寮施設整備
女子更衣室新設
理科室新装
令和４年度　　第２体育館　空調機器設置及び天井照明ＬＥＤ化
校内照明LED化、喜志グランドブルペン整備等
２号館 2階～4階手洗い場改修

（４）令和４年度　進路決定状況

卒業生数と大学進学率の推移

卒業生　　320 人

大学	短大	専門	大学校	専門職大学	各種学校	就職	決定者数
183人	11人	80人	0人	3人	3人	20人	300人
57.2%	3.4%	25.0%	0.0%	0.9%	0.9%	6.3%	93.8%

主な合格実績

大阪大学１名、他国公立３名、関関同立 31 名、産近甲龍 65 名、摂神追桃 99 名

（５）部活動の現況

運動部　19 部

文化部　20 部（内同好会８部）

指定クラブ

硬式野球部（男）
ハンドボール部（男）
柔道部（男女）
女子ソフトボール部
男子サッカー部
女子サッカー部
女子バレーボール部
バドミトン部（男女）

（６）　法令遵守等

・　学校いじめ防止基本方針策定　　平成２６年３月６日
・　ハラスメントの防止等に関する規程　令和２年４月１日（改正）

・　マイナンバー（社会保障・税番号）制度

平成２７年１０月より運用開始されており、適正に運用している。

・ストレスチェック

平成２７年１２月より１年以内に実施体制を整備することが法制化され、平成２８年度から外部委託により実施し、大阪中央労働基準監督署に届け出ている。

・学校関係者評価委員会

（設置及び目的）

保護者等との連携協力、学校の運営への参加の促進及び保護者等の意向の反映のため、学校関係者評価委員会を設置・開催した。

（開催状況）

令和４年度

第１回学校関係者評価委員会　令和４年７月２２日（金）

第２回学校関係者評価委員会　令和４年１１月２５日（金）

第３回学校関係者評価委員会　令和５年３月１０日（金）

令和４年度　学校関係者評価委員

大阪市生野区副区長	櫻井 大輔 氏
大阪市生野区社会福祉協議会会長	多田 龍弘 氏
私学経営研究会代表/俵法律事務所代表	坂口 行洋 氏
大阪府立夕陽丘高等学校校長	宮城 憲博 氏
大阪偕星学園高等学校同窓会会長	竹下 浩樹 氏
大阪偕星学園高等学校教育後援育友会会長	土居 典子 氏

（７）　主な学校行事

入学式　令和４年４月４日（月）

卒業式　令和５年１月２８日（土）

入試関係日程

第１回オープンスクール	令和４年９月４日（日）
塾対象入試説明会	令和４年９月８日（木）
第２回オープンスクール	令和４年１０月１６日（日）
第３回オープンスクール	令和４年１１月６日（日）
第１回入試説明会	令和４年１２月４日（日）
第２回入試説明会	令和４年１２月１８日（日）
入学試験（学科）	令和５年２月１０日（金）
入学試験（面接　※専願のみ）	令和５年２月１１日（土）

（８）　教育改革の推進方向

教員の資質向上

学校改革の根幹に立つのは、教員である。一人ひとりの教師が「教師としての力

を十二分に発揮する」ための環境整備を行う。

平成２４年度は専門家によるコーチングセミナーの連続開催により、養成された教員がさらに教育力向上を図った。さらに、特に管理職、指導的立場にある教員は自己研鑽とＯＪＴに力を注ぎ、現在、中堅・中核となる教員に裾野を拡げ、教育力向上に取り組む。

校塾連携

全国に比類のない学校と塾のそれぞれ長所を活かした生徒を中心とする校塾連携の在り方を探り、一層の深化を図る。

地域連携

地域と密着した学校づくり―地域に愛され、信頼される学校、地域の文化拠点及び防災拠点となる学校づくりを模索する。

図書室の運営

「生徒が利用・活用する図書室に」をめざして、開館時間帯や蔵書充実・整理を生徒目線で工夫改善し、学力向上策を構築する。

蔵書整理の進捗を図りながら、また一方においては教育後援育友会の協力を得て、蔵書充実に取り組む。

国際交流の推進

現在の交流

2014.4　建陽大学校　協定書

2014.7　慶北高等学校　「姉妹校締結に関する合意書」調印

2016.6　学校法人尚学学園　教育協定校に関する盟約

2016.8　学校法人白頭学院　教育提携校協定書

2017.5.1　大淵高等学校との交流覚書

2017.6.22　桃園市立青渓國民中學との国際交流事業協定書

４.財務の概要

別添資料のとおり

５.監事監査報告書

別添資料のとおり